IPCC-24 Earth Negotiations Bulletin
http://www.iisd.ca /climate/ipcc24
Fax:+81-3-5563-8810

財団法人 地球産業文化研究所
Tel:+81-3-5563-8800

Homepage: http://www.gispri.or.jp

Vol. 12 No. 276

2005 年 9 月 27 日

気候変動に関する政府間パネル第 24 回会合

2005 年 9 月 26 日、月曜日

気候変動に関する政府間パネルの第24回セッション(IPCC-24)は、9月26日月曜日、カナダのモントリオールで開会された。午前の部では開会の挨拶の後、前回のIPCC-23の報告草案を採択し、CCS特別報告書に関するWGIII-8の決定を承認し、2006-08年度のIPCC予算とプログラムに関する議論を開始した。午後、次の項目について進捗状況報告があった：作業部会I、II、IIIそれぞれの活動について；AR4統合報告書について；影響および気候の分析用のデータおよびシナリオサポートに関するタスクグループ(TGICA)、国別温室効果ガス目録プログラム(NGGIP)について。その後、IPCCおよびタスクフォース議長団の選挙手順に関する議論を開始した。またファイナンシャルタスクチーム(Financial Task Team)も昼食時に会合し、2006-08年度のIPCC予算とプログラムを検討した。

セッション開会

IPCC議長のRajendra Pachauri (インド)が、セッションを開会し 参加者を歓迎した。カナダの環境大臣、Stéphane Dionは、IPCCの重要性を指摘し、既存の評価報告書の影響力を強調し、IPCCが、適応により注意を向けるよう提案した。同大臣は、カナダにおける現在のそして計画中のCCSの利用を考えた場合のCCS特別報告書の重要性を指摘し、UNFCCCの第11回締約国会議(COP-11/COP-MOP-1)に向けてのカナダの準備状況を紹介した。同大臣は、この会議を成功させる上での、適応や炭素市場そしてテクノロジーといった問題の重要性を強調した。

Pachauri議長は、第5次評価報告書を検討することを含めたIPCC-24での作業日程に言及した。同議長は、AR4に関する作業は重要な分岐点にきていると述べ、AR4でのクロスカッティングテ

ーマが政策関連性を理由としていることを挙げ、将来のIPCCの作業で重要なものは、アウトリーチと、財政支援であることを強調した。

UNEP専務理事のKlaus Töpferは、CCS特別報告書の重要性を強調し、CCSは、気候変動への対処で重要な役割を果たすと指摘した。同氏は、IPCCに対するUNEPの約束に言及し、UNEPは世界気象機関(WMO)と協力し、AR4の成果の普及に協力できると述べた。

WMOの副事務局長Hong Yanは、最近のIPCC/TEAPオゾン層と気候系の保護に関する特別報告書（オゾン特別報告書）の重要性を強調し、IPCCがWMOのメンバーと協力してその普及をはかることを奨励した。同氏は、排出シナリオに関し、将来のシナリオでは、排出量を記述するだけでなく、より広範な社会経済的状況に目を向けるべきであると指摘し、短期シナリオおよび長期シナリオでは、別な方法が必要となる可能性があると指摘した。また同氏は、AR4の一次ドラフトの専門家レビューにおいて、参加を拡大することを奨励した。

UNFCCC事務局のHalldor Thorgeirssonは、CCS特別報告書、オゾン特別報告書、そしてAR4が、政策立案者にとり関連性を持つことを指摘し、アウトリーチ活動を効果的かつバランスの取れたものにすることの重要性を指摘した。また同氏は、IPCCの作業が目録（インベントリー）の指針およびシナリオの開発にとって重要であることも指摘した。同氏は、UNFCCCの実施に関する補助機関(SBI)が、AR4統合報告書作成に時間的余裕を与えるため、COP-13を3週間遅らせる提案をCOP-11に送っていると、参加者に伝えた。

参加者は、暫定議題書を承認した。米国、オーストラリア、英国は、排出シナリオ、アウトリーチ、選挙手順に関する議題項目を早い時期に入れ、IPCC-24の期間中に小グループでの会議が行えるようにするよう提案した。オランダは、アウトリーチの議論は、予算に影響を与える可能性があることを強調した。

IPCC-23報告草案の承認

IPCC事務局長のRenate Christは、IPCC-23報告書に関しては余り重要でない編集上のコメントしか受け取っていないと述べ、この報告書は、コメントをつけずに承認された。

WGIII-8の決定の承認

WG III共同議長のOgunlade Davidson (シェラレオーネ)は、CCS特別報告書(8th WG III/Doc. 2a, Rev. 1)の政策立案者向けサマリー(SPM)と、承認されたSPM (8th WG III/Doc. 2c)との一貫性を持たせるためのテクニカルサマリーと各章の修正案を提出した。WG III共同議長のBert Metz (オランダ)は、WGIII-8での建設的な努力で、SPMが改善されたと述べた。その後、参加者は、WGIII-8の行動を承認した。

ドイツは、再生可能エネルギーおよびエネルギー効率技術に関する特別報告書の作成を提案し、多くの国とグリーンピースの支持を得たが、サウジアラビアはこれに反対した。またベルギーは、この問題をIPCC-25の議題に入れることを提案した。オーストラリア、英国、オランダ、バングラデシュは、AR4のタイミングと内容、特別報告書作成開始に関するIPCC指針、資源の制約を考えると、今の時点でそのような特別報告書を検討することは適切でないと述べた。

ハンガリー、オーストラリア、オーストリア、カナダ、ノルウェー、オランダは、CCS特別報告書に関するアウトリーチの重要性を指摘した。ロシア連邦は、CCS特別報告書は、気候変動への対処という見地で作成されたものであると指摘し、CCS特別報告書に副題を入れることを提案した。この問題では特に新たな行動はとられなかった。

IPCC事務局長のChristは、CCS特別報告書に関し、すでに進められているアウトリーチ活動を紹介した。Pachauri議長は、AR4に関するタイミングや能力上の制約から、再生可能エネルギーやエネルギー効率に関する特別報告書を検討するのはAR4の発表まで待つのが賢明であると述べ、アウトリーチ活動は、IPCC-24の議題として後で取り上げることになると指摘した。

IPCCの2006-2008年度予算とプログラム

Pachauri議長は予算案を紹介し、歳入の増加を図るよう参加者を促した。IPCC事務局長のChristは、2006-08年度のIPCCプログラム予算書 (IPCC-XXIV/Doc.4)を提出し、最近の供与金の年間の割合は年間の経費とほぼ同額または多少上回っているが、パネルが承認した年間予算は下回っていることを強調した。

昼の休憩時間中、Marc Gillet (フランス)とZhenlin Chen (中国)を共同議長とするファイナンシャルタスクチームは、この問題に関する協議を行うため集まった。経費が予想を下回ったことが議論の中心となった。事務局およびテクニカルサポートユニット(TSU)は、一部の会議を延期したり、別な会議と合同での日程を組んだりしたこと、またホスト国から支援を得ることも多かっ

たと説明した。英国は、ドイツやその他各国とともに、必要な供与金額に関するガイダンスが必要であると述べた。このグループは火曜日の朝に再度会合する。

進展状況報告

作業部会I：WG I共同議長のSusan Solomon (米国)は、AR4に向けての進展状況報告を行い、WG Iの第二回代表執筆者会議が、2005年5月10-12日、中国の北京で開催されたこと、WG I報告書の全ての章の一次ドラフトを受け取っていることを指摘した。同共同議長は、よりオープンな登録となるよう、公開されているホームページも含めたさまざまな情報源から、専門査読者として可能性のあるものの長大なリストをまとめ、1000名を超える査読者候補との最初の連絡を行い、現在400名を超えるものについて確認がとれていると説明した。同共同議長は、オゾン特別報告書が印刷中であり、執筆者向けの不確実性ガイダンスメモは、IPCCのホームページで利用可能になっていることを指摘した。

作業部会II：WG II共同議長のOsvaldo Canziani (アルゼンチン)は、進展が見られたものとして次のものを挙げた：WG IIの一次ドラフトの提出；その専門家レビューの開始；テクニカルサマリーおよび政策立案者向けサマリーの開始。同共同議長は、WG II第四次評価に用いられる資料に関する地域データベースの開発を強調し、COP-11において、適応、緩和、持続可能な開発のクロスカッティングイシューに関してWG IIとWG IIIとの合同会議が計画されていることにも焦点を当てた。Canzianiは、AR4作成に関する時間的な制約と、主題の重要性からすると、水に関するテクニカルペーパーの提出を6ヶ月遅らせることを求め、参加者はこれに同意した。

作業部会III：WG III共同議長のMetzは、WG IIIの進捗状況について報告書を提出し、CCS特別報告書は2005年末には用意できるはずであると述べた。同共同議長は、WG IIIの一次ドラフトにおける進捗状況を説明し、2006年2月に第三回の代表執筆者会議を中国の北京で開催すると述べ、適応、緩和、持続可能な開発のクロスカッティングイシューに関するWG II.とWG III の議論を進めるため、インターネット上にバーチャルな調整グループ（Virtual Coordination Group）を設置したと述べた。またMetzは、2005年1月に米国、ワシントンで行われたAR4で用いる排出シナリオに関する専門家会議、2005年6月にオーストリアのラクセンブルグで開催された新しい排出シナリオに関する会議にも言及した。

AR4統合報告書：Pachauri議長は、次のことを参加者に伝えた：AR4統合報告書の管理に関する取り決め；オランダBaarnでのIPCC議長団、共同議長およびTSU議長の会議の結果；AR4統合

報告書の予算上の影響が、634,000スイスフランと推定されること。AR4統合報告書の内容と形式に関するスロバニアからの質問に対し、Pachauri議長は、これらの問題がIPCC-22で決定されたことを指摘した。オーストリアは、COP-13を3週間延期する必要性について、会議の議事録に特に明記するよう求めた。

影響と気候の評価用のデータおよびシナリオサポートに関するタスクグループ：TGICA共同議長のRichard Moss (米国)は、特定の地域や部門でのデータの不足と、開発途上国での訓練と能力開発の必要性からくる問題を強調した。同共同議長は、TGICAの進展報告書に含まれている、開発途上国での能力強化に関するTGICAの提案の概要を紹介した。参加者は、TGICA自身が訓練を提供することはせず、仲介者（facilitator）として行動するとの理解を前提に、その提案を支持した。

国別温室効果ガス目録プログラム

NGGIPタスクフォースの共同議長であるTaka Hiraishi (日本)は、国別温室効果ガス目録のIPCC2006年度ガイドライン(2006年ガイドライン)に関する進捗報告書、排出係数データベース(Emission Factors Database)に関する進捗報告書、エアロゾルでのさらなる作業に関する進捗報告書を提出した。同共同議長は、2006年度ガイドラインの進展状況は予定通りであり、この2006年度ガイドラインが進展するにつれ、排出係数データベースの重要性が増大するはずであることを指摘した。エアロゾルに関し同共同議長は、気候変動に関連するエアロゾルの排出量推定に関する専門家会合の報告書を提出し、フォローアップ会合の提案も提出した。

フランスとドイツは、エアロゾルに関する作業が、目録に関する作業を進めるほど、十分に進展しているかどうか疑問であるとした。ロシア連邦は、作業の継続の重要性を指摘する一方、エアロゾルの理解が十分発展しているかどうかに疑問を呈した。Pachauri議長は、どう進めるかに関しての一貫した疑問の表明に対し、この問題に関する議論を火曜日まで持ち越すこととした。

選挙手順

David Warrilow (英国)とRichard Odingo (ケニア)は、IPCC議長団およびタスクフォース議長団の選挙手順に関する議論の共同議長を務めた。IPCC事務局長のChristは、一行ずつの議論に向け

て、手順草案について説明した。数人の参加者が改訂文書のコピーを求めた後、議論は火曜日に持ち越された。

廊下にて

WGIII-8の終りにかけて、夜遅くの詳細にわたる審議が行われた後、IPCC-24の開会日は、もっとリラックスした雰囲気となったようだ。一部の参加者は、特に対立の深い問題がいくつか会議の後半に回されていることから、二日目の方がもっと激しい議論になるのではないかと見ていた。

廊下でもプレナリー自体でも、AR4統合報告書のタイミングのほか、選挙手順、排出量シナリオ、エアロゾル、アウトリーチ、そして予算の検討に関心があったようである。多くの参加者がつかの間の関心を示した問題は、Dion大臣がCOP-11とCOP/MOP-1を「気候変動会議」と称したことである。これは、ただ単に言葉の選択の問題であると考えたものが大半だったが、あるオブザーバーは、このような言葉の変更は、より広く「気候変動」に関心を向けてもらいたいとの希望を示すものではないかといぶかしんでいた。

NEDO からの委託により GISPRI 仮訳